

認定看護管理者教育課程を受講して

上司の勧めで受講を決意した。休日に受講し、レポート作成に追われ、最初は講義について行くのが精一杯だったが、仲間や講師の言葉が刺激となり、「手ぶらで研修を終われない」という気持ちに変化した。相手を論破する理論武装、論理的文章力、受講生相互の学びで白熱したグループディスカッション。研修当初とは変わった自分を感じ、発表する喜びさえ感じられた。看護管理の知識は勿論、「日常にある自分を変えたい、自分を変えてくれる出会いや感銘を受けたい」と思われている方、西南女学院大学のファーストレベル、必見！ 久留米大学病院 齋藤泰臣 (2018F 修了)

副看護師長昇任を機に看護管理の基礎知識を学びより良い看護が提供できるようにファーストレベルを受講した。正直、勤務と家事、子育ての両立が大変だった。講義は大変興味深いものばかりで、グループワークは同じ悩みを共有し生涯の友と呼べる人にも巡り合えた。西南女学院大学の理念である「感恩奉仕」に触れ、生かされていることに感謝し、高い志を持って看護に邁進したいと思うことができた。セカンドもぜひ、この学び舎で学びたい。
北九州市立医療センター 村田美由紀 (2019F 修了)

上司の勧めで受講した。管理者でないので教育についていけるか、学びが役に立つか不安は大きかった。管理の基礎をはじめ、現場の問題を解決するための方法論、論理的思考力を学び、管理者でなくても現場に役立てられる内容だ。専任教員は時間があれば看護や教育、看護管理論を語り、暑い時期の講義がなお一層熱さを増した。受講生は様々な施設から参加し、管理者、スタッフ関係なくディスカッションすることができた。ぜひ多くの方に受講していただき、学ぶ喜びを感じていただきたい。製鉄記念八幡病院 河野幸代 (2019F 修了)

人口構造も変化する中、医療情勢は急速に変化し求められるニーズも多様化している。主任という立場でありながら、看護師を取り巻く医療業界の流れや把握できない情報量の多さに不安を抱き、セカンドレベル受講を希望した。セカンド受講中は仕事と家庭の両立で忙しい生活とはなったが、繁忙な臨床現場から離れ、学ぶ機会を頂けたことで心身のリフレッシュにも繋がった。何よりも様々な背景や立場で働く受講生と議論を重ねながら記載したレポート内容の具現化を目指し、日々努めて行きたい。小倉記念病院 山口大輔 (2018S 修了)

看護師長になり5年目。新設病棟の師長を拝命した。一から作る部署は他部門との交渉、スタッフ教育、業務の効率化を目指したルール作り等の課題が山積。課題解決に必要な知識とマネジメント力、リーダーシップ等の管理能力の習得のために受講した。知識と経験豊富な講師陣の講義や目的を同じにした受講生とのグループワークは財産になった。図書も充実し学習環境は最適だった。この学びを実践の場に生かしていきたい。

北九州市立八幡病院 川崎久美子 (2019S 受講生)

昨年ファーストを受講し、看護管理の基礎を学んだ。今年はセカンドでその基礎を踏まえ、現場で実践している看護管理を振り返りながら、看護管理者の責務遂行に必要な知識や技術を、講義や受講生とのディスカッションで学んでいる。同じ悩みや志を共有できる多くの仲間に出会えたことが一番の財産になった。自施設のセカンド受講生を増やし、同じ志を持った看護管理者と自施設の看護の質向上に取り組んでいきたい。

西野病院 有働麗 (2018F 修了 2019S 受講)